



東日本大震災後、市内の女性団体等がさまざまな支援活動を行ってきました。これらの団体による活動報告会をきっかけに出来た新しいネットワークが、「3.11トークカフェ」です。

震災から2年以上が過ぎ、課題が残るなかで、第3回目の今回は、各団体や個人の報告が行われました。

被災者支援活動報告



草野 祐香利
(くさの ゆかり) さん
[特定非営利活動法人
Commune with 助産師
理事長]

子育て支援を通じた支援活動

通常取り組んでいる事業は主に3つです。「こみゅーん助産院」では、妊産婦の保健教室や、妊娠・出産・育児の相談、家庭訪問や産後入院などの産前産後ケアを行っています。「こみゅーんクラブ」では、育児グッズのハンドメイドやベビーマッサージ、アレルギーっ子お料理教室などを開催しています。「ホームスタートこみゅーん」では、乳幼児のいる家庭に研修を受けたボランティアさんが訪問しています。また、「こども♡あいネット」という子ども支援ネットワークにおいては、代表団体・遊び場運営管理担当として活動しています。

被災者支援活動のきっかけは、私たちの社会的役割、責務と考えたためです。例えば、支援情報収集と発信、ニーズの把握、母子の支援や物品の調達をしました。また、妊産婦・乳幼児などの健康支援や、避難所での支援、子育て支援ネットワーク構築を行いました。

これからも、「ハッピーバース! ママがいきいき、家族が元気!!」になれる活動をしたいと思います。



松崎 和敬
(まつざき かずよし) さん
[特定非営利活動法人
いわきの森に親しむ会
理事長]

いわきの森林の再生を通じた復興活動

通常は、里山の観察コースの整備などの市民の森づくり活動や、森とのつき合い方の勉強会、啓蒙活動や情報発信、湯ノ岳山荘の管理運営などを行っています。

被災者支援活動のきっかけは、広島県の団体から福島支援の働きかけがあったのと、栃木県のNPO法人からいわき市で事業展開したいという要請を受けたためです。これまで、「東北まち物語紙芝居化100本プロジェクト」で福島県側のコーディネート役となり、仮設住宅における紙芝居公演を行いました。また、津波被害の松材でプランターを作って仮設住宅に提供したり、津波被害の海岸林再生整備事業「苗木forいわき」を行ったりしました。活動の中で工夫したのは、県外からのボランティアの後方支援という形でいわき市の現状が理解されるように努めたことです。

これから、プロジェクトを推進するために、市内で紙芝居を作る人材を発掘していきます。また、海岸林整備には長期の取り組みが必要であるため、協力者の確保と指導者の育成に力を入れたいと考えています。



伊藤 幸恵
(いとう ゆきえ) さん
[いわき市男女共同参画情報紙
Wing 編集委員]

震災後に必要だったもの

震災時、私はセミナー受講のために東京都内にいました。いわき市内への電話やメールは通じなくなり、銀行預金も引き出せません。さらに電車やバスも運休で、やむをえずホテルに宿泊しました。「いわき市へ自転車で移動しよう」と決めたのはこの時です。震災後2日目には、埼玉県和光市の友人宅へ移動しました。友人の協力を得て、折りたたみ自転車や衣類、小物を準備しました。3日目は茨城県の取手駅まで電車で移動し、そこから水戸市の友人宅まで自転車で約30km走りました。その途中で医薬品や水を調達しました。4日目は、いわき市の自宅まで約80km走り、ようやく家族と再会できました。

心身ともに極限状態の中、多くの人の協力を得ながら100km以上の距離を自転車で走りきることができました。自転車で走るという肉体的な苦労はしましたが、精神的な苦労は家族のほうがはるかに大変だったと思います。

震災という場面では、地図や携帯充電器などの「物」、行動の幅を広げるための「お金」、いざというとき頼れる「人」の重要性を強く感じました。



男女共同参画基礎講座「働き盛り編 おでかけSANKAKU講座」として、久之浜第一小学校長松本光司さんによる、「父親の役割とワーク・ライフ・バランス」の講演が行われました。講演は堀江工業(株)の社内安全衛生教育講習会の一環で、多くの男性が参加しました。松本さんは、いまだきの子どもたちの人間関係の希薄化やコミュニケーション不足を指摘し、父親の役割の重要性やワーク・ライフ・バランスの必要性について話しました。